

極める

武蔵ヶ丘中学校(田嶋浩紀校長、生徒数839人)は、「夢の実現に向けて挑戦 そして 前進」を教育目標に掲げ、授業だけでなく、部活動やボランティア活動などの教育活動も極めるため、力を入れています。

本校で行われた熊本県中学校社会科研究大会の授業では、「子育てしやすい菊陽町」の政策を提案するなど地域に根ざした教育も行っています。また、地域未来塾やジュニアボランティア養成講座など、地域の皆さんに支えられて活動を行っています。



「子育てしやすい菊陽町の政策」について話し合う生徒

ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば 117



「人権学習で学んだこと」



伝え、話し合うことを大切に

わたしは人権学習で「ひとりの友だち」という話を聞きました。そこでわたしが学んだことは二つあります。

一つ目は、何を言われてもあきらめないことです。わたしは友だちからひどいことをいわれたことがありました。そして友だちに「話し合おう」と何回も言いました。でも、その友だちは聞いてくれなくてわたしも言うのがつらくなってしまいあきらめてしまいました。でもこの話は何を言われてもあきらめないでその人と話し合うことができました。わたしもまたこういう事があつたらその人が聞いてくれるまで何度も何度も聞きたいです。

二つ目は、謝るのではなく話し合うことです。わたしは友だちとケンカやめごとなどをすると謝って解決するぐらいしか方法がなかったけど、この話は謝って解決するのではなくその人と話し合っ解決していました。だからこれからケンカやめごとなどをしたら謝って解決するのではなくその人と話し合っ解決したいです。

武蔵ヶ丘北小学校 6年 田嶋 叶奈

わたしは「ひとりの友だち」の学習をして本当の友だちとはお互いに何でも相談し、協力ができる事だと思いました。

これからは、ひどいことを言われたらあきらめずに何でそういう事をしたか聞いたり、謝るのではなくその人に伝えて話し合っ解決したいです。

(先生より)この学習をとおして、友だちについてしっかり考えることができましたね。互いの思いを伝え合い、「本当の友だち」を作っていくてください。

短歌会

雨待ちて春のキャベツを植え付けす三日かかりて一万余本を  
診断を待てる患者をかたわらに医者はしきりにパソコンを打つ  
なつかしき溝蕎麦折らんと出しし手を刺に刺されて一人笑いぬ  
阿蘇山はすすき野原と竜胆が今が盛りと友は告げ来る  
どんぐりの森をあるけば音がするぼりころ小きな音が

名月のお茶をたのしむ市長かな  
園児らに和むシルバー運動会  
声ころし泣きじやくる子の小春かな  
初霜や踏切の鐘列車待つ  
阿蘇の山崩れし巖や芒原  
川下り早瀬に揺るる崖紅葉  
夕茜留守に置かるる芋と蒞  
立冬や夕日に染まるちぎれ雲  
広き田に切藁撒かれ冬に入る

噴煙の素直に昇る紅葉晴  
踏みしめて踏みしめ山の粧へる  
風呂吹や言葉少なくはふはふと  
秋風や姿勢を正しくしないとね  
湯けむりのふくらむ里の小春かな  
風もなしに音立て落つる柿落葉  
残業の子等を待ちわびおでん炊く  
白菜の山と積まれて道の駅

菊陽句会報

きくよう文芸

梅田 國雄  
河北 幸一  
佐藤せい子  
中村トシエ  
松本 東亜

米山 幸子  
吉田 幸子  
木村 信子  
緒方チエ子  
曾我トモ子  
曾我 育代  
紫藤 祥子  
宮川ユキエ  
田嶋 三間

志賀キヨ子  
財津 早雪  
原野レイ子  
寺尾千代子  
高橋 孝子  
福田 貴子  
田中 亜古  
北川しんじ  
佐藤 澄世

「ひとりの友だち」は熊本県人権教育研究協議会編集の人権教育副読本「きずな」に掲載されています。全文は掲載できませんが、学びを共有するために紹介します。

…略…初めに直樹にいちゃんの太鼓を聞かせてもらいました。「げんこつ太鼓」は小学校二年生から始めたそうです。練習が終わるとその頃の話をしてくれました。

小学校三年生の時、なかのいい友だちの伸二からオレの住んでる大井を指して「大井うらんどる」って言われた。「今の何？」って聞いていったけど、伸二は部落差別したことに気づいていなかった。いやだった。ショックだった。一年生の時から、人権集会のたびに前に立って発表してきたのにも思ったけど、伸二と二人で、学習会のことや部落差別のことを話していなかったことに気がついた。オレたちは学習会のなかまとも何度も考え、伸二に伝えたいと思った。伸二と話し合いをしたいけど、昼休みには、みんなでサッカーしたりいつも一緒に遊んでいたからとても言いづらかった。伸二も遊びたいけん乗り気じゃなかった。「話そう」と誘うと「しつこい」とも言われた。でも、「大井うらんどる」ということはなかのいいオレのことも含めて差別しているんだと分かってほしかった。個人を指して「あいつ、

むかつく」ではなく、大井を指して言うことは、どんなに「おまえのこと、言ったんじゃない」と言っても「オレのことだ」と気づかせにゃん。自分が勉強してきたこと話さにゃん。オレはそういう勉強してきたから分かるけど伸二はしてきていない。だからこそあきらめなくなかった。分かってくれるためにオレから心をひらいて、話し合いを重ねていこうと思った。何日目かの昼休み伸二はやっと「一年生の頃、サッカーで、オレが大井の上級生にタックルしたら「へたくそが！」とばかにされた。それがずっと嫌だった。だけん、『うらんどる』で言うた」と話してくれた。それを聞いた伸二とオレたち学習会のなかまは、その上級生のところに出かけて行った。しばらくたった人権学習の時間、「このクラスに部落差別があると思えますか？」という問いかけに「あると思う。だってぼくが『大井うらんどる』と言ったからです」と答えた。その後、オレたち、高校は別々になったけれど互いに何でも相談していった。…略…

この中にもいじめを受けた人、心をひらけない人、きついことを相談できないでいる人がいると思う。一人で考えているより、みんなに話したらいい。どんなに楽で心強いかな。一人でもいいから、そんななかまをつくってほしい。オレにとっての伸二みたいな友だちをつくってほしい。

…略…